Ben Shneiderman の黄金律や Donald A. Norman の 4原則などいくつかあるが、筆者の好みは Jacob Nielsen のユーザビリティヒューリスティクスである。「出 口を明らかにする」との項目があるのが理由である。

「出口」には2つの意味がある。第1は、設計対象 の出口である。設計者は対象製品・システム・サー ビスを熟知しているので、正しい操作で正しく終了す ることしか考えていない。ユーザは往々にして、誤操 作により設計者の意図した出口に到達できず、迷路 に迷い込む.「強制終了」という手段もあるが、せっか く入力した内容を再度入力せねばならない。先日も 国際会議の登録をWebでしていて、最後にクレジッ トカード支払いができないことが分かり、そこで無理 やり終了せねばならなかった。 結局自分で銀行に行 き1時間以上かかって支払い手続きを行い、Webで の申し込みが完了するまでに1週間かかった.

第2の「出口」は、利用者の意図である。設計者は、 設計対象が機能することがゴール(出口)であると思い 込んでいる。利用者は製品・システム・サービスを使う ことは出口でない。たとえば、きれいにすることを意図 して掃除機を使うのである。部屋がきれいになるだけ では不足で、掃除機が吸引したごみを捨てて、初めて 利用者の意図が達成される. 先の国際会議の登録も, 利用者の意図は会議参加で、個人情報の登録と参加 費の支払いが必須である.参加費支払いがクレジット カードでできない旨は、登録の冒頭で明確にすべきで あろう。また、利用者の意図に沿いつつ飽きられない システム・サービスとすることは、設計者にとって大変 負担が大きい. 手離れがよく, かつ継続可能にするこ とで、設計者と利用者双方にとり Win-Win になる.

Win-Win の「出口」を実現するのは、なかなか難し い、システム設計に限らず、新テーマでの研究開始、

土井美和子 Miwako DOI

((株) 東芝研究開発センター)

[正会員] miwako.doi@toshiba.co.jp

1979年(株) 東芝入社、ヒューマンインタフェースを専門分野とし、日 本語ワープロ,機械翻訳,VR,道案内サービス,ネットワークロボット の研究開発に従事. 現在, 日本学術会議会員, 東工大経営協議会委員, NII 運営会議委員, JST 運営会議委員, 東大客員教授, 電気学会副会長 などを務める. 本会フェロー. 電子情報通信学会(フェロー), ヒューマン インタフェース学会, IEEE (Fellow) 各会員. 博士 (工学).

新組織の立ち上げなど、新しいことを始めるときに、み な張り切る。 当所からテーマ・組織などの継続(今はや りのサステイナビリティ) や終了の仕方など Win-Win の 「出口」が明確になっている例は少ない、読者の皆様の まわりにも組織のWebサイトを開設あるいはリニューア ルしたが、掲載内容を定期的に更新できず、消滅した もの、消滅しかかっているものが多々あるに違いない。

Win-Win の「出口」思考のベストプラクティスは, 秋元康プロデュースの AKB48 やその前身のおニャン 子クラブであると勝手に思っている. おニャン子クラブ は 1985 年 4 月から 1987 年 9 月までの 2 年半活動し、



[シニアコラム] II T 好き放題



[No.22]

Win-Win「出口」 思考と AKB48 総選挙

AKB48 は 2005 年から現在も活動中である。

Win-Win の「出口」の1つである手間なくかつ鮮度 を保つ方法が、メンバの選出と卒業という仕組みであ る. おニャン子クラブでは、毎週番組内でオーディシ ョンなどによりメンバ追加を行っていた。AKB48では、 「AKB48 26th シングル」「各ファンクラブ会員」「オンデ マンド月額会員」「AKB オフィシャルネット(プロバイダ サービス)」などで得た投票権を駆使した総選挙である. ファン参加型は、CGM (Consumer Generated Media) であり、HIでの利用者参加型設計(Participatory Design) である。大きな違いは利用者参加型設計では、 参加者に謝金を払うのに、AKB48では利用者から参 加費をもらう点である。 ちなみに 2012 年 6 月総選挙で は,64位までの投票総数が518,820件。これは,51 万件以上の CD あるいはそれに相当する売り上げが秋 元氏ら関係者に還元されていることを意味する。

さらに卒業は、メンバに参加当初から出口を意識させ ている。卒業の仕方もソロデビューなどハッピーなものだ けでなく、スキャンダルなどによる退団や HKT や SKE, NMB など地方グループへの移動形式など多様である.

ぜひ, 読者の皆様もWin-Win「出口」思考で, イノ ベーションを起こしていただきたい.

(2012年7月1日受付)